

里地里山保全再生の目標と取り組み内容

＜里地里山保全再生の目標＞

目標① 資源の循環的利用による生物多様性保全

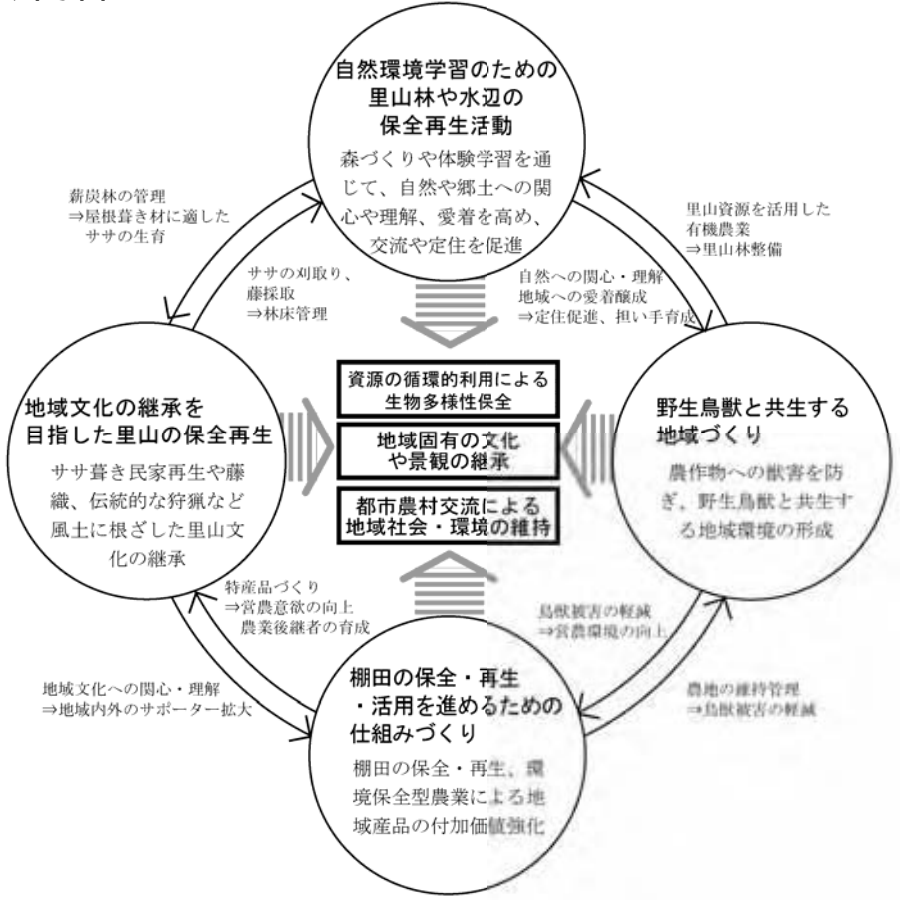
この地域の伝統的な森林管理手法に基づき、里山の資源を利用する活動を通じて生物多様性の高い里山を再生する。また、堆肥による土づくりや農薬の使用低減など環境保全型農業を推進し、農業生産活動を通じて生物多様性の保全を図る。

目標② 地域固有の文化や景観の継承

独特の集落空間構成や民家形態と棚田や里山が一体となった美しい里地里山の景観、風土に根ざした生業・文化を次世代に継承する。

目標③ 都市農村交流による地域社会・環境の維持

高齢化・過疎化により今後の存続が危惧される地域社会および地域環境を維持するため、里地里山の保全再生活動を通じて地域外の市民との交流を活性化し、居住・生産環境保全の担い手を多様化するとともに、地域への定住を促進する。



自然環境学習のための里山林や水辺の保全再生活動

世屋周辺には、コナラ、シデを中心とした広葉樹林が多く残っており、棚田や下流域の水源地としても重要です。また集落を流れる河川、湿原等も地域の暮らしや文化、地域に生息する生き物を支えてきた大切な資源です。

ONPO等による里山林管理のための仕組みづくり

近年では山の手入れをすることがほとんど無くなり、山林の所有者もわからない状況です。NPO等で手入れが可能な土地を把握するなど、里山林管理の仕組みづくりを進めていきます。

○自然環境学習、自然体験活動のフィールドとなるような森づくり、水辺づくり

集落周辺の森に、子ども達を対象にした自然観察会など環境学習のフィールドとなるような場所をつくっていきます。下刈りや間伐などの手入れを行うことで、地域外のサポーターに自然体験活動の機会を提供すると共に、多様な生物が暮らせる森づくりが期待されます。またかつて使われていた旧道等やその周辺を歩けるように整備することで、自然に親しみのもてる空間がより広がります。河川等の水辺については、山から海へのつながりを意識しながら、親しみのできる水辺づくりを考えていきます。



ブナ林

ダケ山展望台への散策道

地元中学生を対象にした自然観察会

地域文化の継承を目指した里山の保全再生

里地里山との関わりの中で育まれてきた地域の文化、暮らしの知恵を、地域に住む方々から受け継ぎ、次世代に伝えていくような取り組みが必要です。こうした文化を守り伝えようという動きが既に始まっています。

○ササの刈り取りを通じたササ葺き民家の再生

丹後半島における希少なササ葺き民家の再生に必要なチマキザサの刈取りやタケの採集、葺き替えの作業、運営計画等を、地域の方々の知恵・力を借りながら、NPO団体等、学生グループ、地区外サポーターと連携しながら進めていきます。

○藤づるや薪炭採取等の林床管理

藤織保存会の講習のほかに、藤づるや薪炭材の採取を通じて、里山の恵みから紡ぎだされる藤織に関心を持ってもらうような企画を考えていきます。

○地域固有の里地里山文化の継承

伝統的なウサギ飴「ばい投げ」や、野草・山菜などを用いた食文化など、地域固有の伝統的な里地里山文化の継承に取り組んでいきます。



ボランティアによるササ葺き屋根の修復作業（京丹後市大宮町五十河）



藤織の技術を伝承する活動

棚田の保全・再生・活用を進めるための仕組みづくり

世屋では棚田の立地を生かした無農薬米作りや有機農業が行われています。また昨年より棚田での米作り体験教室も開催されています。

○棚田保全や遊休農地の再生について考える場づくり

地域の方々、地元企業やNPO団体等、地域に関わる人たちが参加して、地域の棚田の保全、休耕田の再生について考え、取り組んでいく場をつくっていきます。例えば遊休農地や空家に関する情報を集め、米づくりを考えている方に紹介する、遊休農地を借上げて共同で活用する等、新しい対策が考えられます。

○米作り体験や農業体験教室の拡大実施

既に展開されている米作り体験や、農業体験教室などの参加者の幅を広げ、地域内外にサポーターを増やしていきます。

○特産品づくり

地域の方々、NPO団体などが知恵を出し合い、「世屋の棚田米」、「世屋の高原野菜」などの特産品づくりを通じて農地の保全、地域の活性化を進めます。



棚田での米づくり体験教室



紙マルチを用いた無農薬米作りの取り組み

獣害対策に向けた取り組み

里山の環境の変化や遊休農地の増加などにもなっており、野生鳥獣による農作物等への被害が増加しています。このような被害を防ぎ、地域の暮らしを守るとともに、野生鳥獣と共生する地域環境づくりに向けて検討を進めていきます。

○野生鳥獣と共生する地域環境の形成に向けた検討

地区では、これまで講師を招いて鳥獣対策に関する講演会の開催や、実際の現地を歩きながら対策検討などに取り組んできました。今後は、地域の環境整備に取り組むなどして、野生鳥獣と人との境界を形成し、野生鳥獣と共生する環境づくりに向けて検討を進めていきます。



獣害対策について学ぶ講演会



現地を歩いて対策を検討

